学校番号	211

令和８年度　理科（生物）

教科	理科	科目	生物Ⅱ	単位数	4 単位	年次	3 年次
使用教科書	高等学校　生物（啓林館）						
副教材等	ESSENCE NOTE 生物（啓林館）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

1 週間で４回のペースで授業を行うため、毎日（毎週）復習をしておくこと。自分で参考書・問題集などを購入し、自主的に勉強を進めていく姿勢が望ましい。多くの知識とそれを活かして考察する能力が必要。「生物基礎」と「生物」のつながり、「生物」の中での流れを踏まえて、各分野の学習する目的も理解しておくこと。

学習方法としては、暗記しているかどうかを試すのではなく、説明できるかどうかで理解の具合を確かめると良い。インプットした知識がアウトプット（問題集を解く、人に説明できる etc）できるかどうか。その点を意識して、計画的に勉強すること。

2　学習の到達目標

生物や生物現象に対する探究心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに，生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的な自然観を育成する。

生命の多様性・共通性に気が付き、身の回りの生物への慈しみの心を育てるとともに、多くの生物が生きて成り立っているこの環境を保全する精神を養う。

3　学習評価（評価基準と評価方法）

観点	a 知識・技能	b 思考･判断･表現	c 主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・原則を理解し、知識を身に付けている。	生物や生物現象の中に問題を見いだし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを適切に表現している。	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象の関係に関心をもち、意欲的に探求しようとするとともに、生物の共通性と多様性を常に意識するなど、科学的な見方や考え方を身に付けている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	生命現象と物質	・物質と分子 ・生命現象とタンパク質	a: 生物の成り立ちについて理解し、用語や法則を身につけている。 b: 代謝の化学反応や遺伝子発現に関わる一連の反応などについて関係性を見出し表現できている。 c: 自ら進んで生物の成り立ちや遺伝子について考え、関心を持ち、主体的に探求しようとしている。	テスト ワークシート	テスト レポート	レポート 発表
	代謝・遺伝情報とその発現	・代謝 ・遺伝情報とその発現				
2学期	遺伝情報の発現と発生	・発生と遺伝子発現	a: 発生の仕組みやバイオテクノロジーに関する技術を知識として整理し、日常と関連づけ身につけている。 b: 発生に関する遺伝子発現の仕組みやバイオテクノロジーの技術の応用方法を見出し、説明できている。 c: 自ら進んで課題に取り組み、主体的に探求心を持って主体的に探究しようとしている。	テスト ワークシート	レポート	レポート 発表
	遺伝子を扱う技術	・バイオテクノロジー ・バイオテクノロジーの応用				
3学期	生物の環境応答	・動物の反応	a: 刺激に応答する行動の仕組みを知識として整理し、日常と関連づけ身につけている。 b: 動物の行動の関係性を見出し、説明できている。 c: 生命現象に興味･関心を持ち主体的に探求し理解しようとしている。	ワークシート	レポート	レポート 発表

※表中の観点について

a:知識・技能　　b:思考･判断･表現　c:主体的に学習に取り組む態度